

社会連携報告書

2023（令和5）年度

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
COC（地域連携）・国際交流センター

目 次

はじめに	1
1. 高大連携	2
1-1 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校との連携事業	
1-2 県内高等学校との連携	
2. 学生による地域活動	4
2-1 三重県内小学校での学習支援ボランティア	
2-2 三重県立みえこどもの城でのイベント開催	
2-3 こどもボランティア部	
2-4 グローバルスタディ	
3. 地域連携	9
3-1 公開講座・授業公開	
3-2 高等教育コンソーシアムみえ	
3-3 鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業	
3-4 あそび広場「すずちゃん」	
3-5 鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」	
3-6 みえアカデミックセミナー	
3-7 野球振興プロジェクト	
3-8 鈴鹿大学と三重バイオレットアイリスによる産学連携授業	
4. 国際交流	18
4-1 海外留学支援プログラム	
4-2 国際交流	
●巻末資料	20
・公開講座一覧	
・学外委員会での活動一覧	
・協定先一覧	

はじめに

本学では創立者堀榮二がかかげた校訓「誠実で信頼される人に」を建学の精神としています。その願いは、“誠実さを基にして学生は教職員を信頼し、教職員もまた学生を信頼することのできる教育の場にして、ここで培った信頼感を社会に広げたい”というものです。こうした精神のもと、鈴鹿大学は、“培った信頼感を社会に広げる”に因り地域社会との連携に積極的に取り組んできています。

大学が地域社会と連携することは、大学のみならず地域社会との持続可能な発展・成長に資する重要な役割を果たすと考えます。地域社会のニーズを把握し、知識や技術を共有することで、地域経済の活性化や地域社会の課題解決に貢献することも可能です。また、学生にとっては実践的な経験や社会貢献の機会を得ることができ、地域とのつながりを深めるとともに社会の中で生きることの有用性を体感することができます。

こうした中、令和5年度はCOVID-19の対策も緩和され、様々な態様による社会との連携活動を行ってきました。

1つ目は、大学と高等学校との連携による知の共有です。大学の研究成果や専門的知識を活用した高等学校との連携です

2つ目は、学生による地域活動です。学生が主体となり地域の団体や住民に対して活動を提供してきました。

3つ目は、教員による地域連携です。地域住民を対象としたセミナーやワークショップ講座の開講、また大学の研究成果を活用した産学官交流交流等です。

4つ目は、国際交流です。本学の開学以来の強みである海外大学との交流を積極的に行ってきました。

当報告書では、令和5年度に本学が行ったの地域社会との連携活動をまとめました。COVID-19の対策が強化された期間からの再開です。まだまだ発展の可能性のある取組もあろうかと思えます。

今後ますますの発展ができますよう、皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

COC（地域連携）・国際交流センター長 伊東 直人

1. 高大連携

1-1 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校との連携事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学こども教育学部と鈴鹿大学短期大学部では、幼稚園教諭免許状と保育士証を取得できるコースや養護教諭免許状を取得できるコースがあることから、指導する教員や施設が整っています。鈴鹿高等学校の幼児教育クラスや看護医療クラスの「総合的な探究の時間」を利用して、生徒の人達が本学で専門的な学びを体験してもらうことにより、希望する進路への興味関心を高めることを目的として、この連携事業を実施しています。

■活動内容と実績

前年度末に、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校の担当教員が打ち合わせを行い、授業内容を確認します。本学に来校して講義を受けたり、教員が鈴鹿高等学校を訪問して講義を行ったりしています。2023年度は、幼児教育クラスは、2年生は「身体運動」「制作活動」、「音楽活動」など6回（うち2回が大学生と合同授業）3年生は「保育者の資質とマナー」、「乳児保育」など5回（うち3回が大学生と合同授業）の講義を実施しました。看護医療クラスは、2年生は「バイタルサインと妊婦体験」を1回、3年生は「バイタルサインの測定とグループワーク」を1回といった講義を実施しました。

幼児教育クラスの高校生からは、「大学で専門的な講義を受けられ、大学生とともに学べて良かった。」といった意見が、看護医療クラスの高校生からは、「シミュレーター人形を使った実践的な講義や妊婦体験を通して、命の大切さについて深く考える機会になった。」という意見があり、好評でした。高校生との合同授業は、学生たちにとっても大学での学びについて振り返りを行う貴重な機会になっています。



幼児教育クラス2年生の授業風景



看護医療クラス2年生の授業風景

■今後の計画

2024年度以降も鈴鹿高等学校と協力しながら、高校生の皆さんの学びを深めるこの取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担当 こども教育学部 上田ゆかり y-ueda@suzuka.ac.jp
短期大学部 みやざき美栄 m-miyazaki@suzuka.ac.jp

1-2 県内高等学校との連携

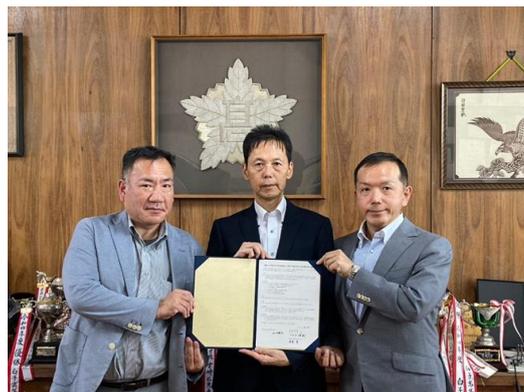
■活動の目的と経緯

本学連携を図ることにより、入試広報の効果が得られるとともに、地域に必要とされる大学として応えるものになっています。

■活動内容と実績

2023年度は三重県内6校との高大連携協定を締結しました。締結により、本学教員による高等学校での出前授業の実施、教育についての情報交換及び交流を、より強化しました。

協定先	締結日
三重県立白子高等学校	2023年7月18日
三重県立石薬師高等学校	2023年8月9日
三重県立白山高等学校	2023年12月1日
三重県立飯南高等学校	2023年12月1日
三重県立稲生高等学校	2024年1月29日
三重県立四日市四郷高等学校	2024年1月31日



白子高等学校



稲生高等学校



四日市四郷高等学校

■今後の計画

県内高等学校との連携先を拡大し、高等学校在学中から授業科目への科目履修生受入れ、授業聴講及び施設見学などができることにより、本学への関心を深める取組を行う。

■担当者

担当 入試広報課長 生川 幸紀

連絡先 メール nyushi@suzuka.ac.jp

2. 学生による地域活動

2-1 三重県内小中学校での学習支援等ボランティア

■活動の目的と経緯

当活動の目的は2つあります。一つは、学生の学びです。将来教員を目指すことも教育学部や短期大学の学生にとっては、教育現場において児童生徒の支援や教職員のサポートを体験することで教育現場の課題を体感したり、児童生徒と接することの喜びを体感できたりし、自らの可能性を広げることができます。

もう一つは、学生の自己実現の場です。国際地域学部の学生・とりわけ留学生にとっては、学校現場で外国につながる児童生徒の通訳等を通して、自らの有用性を広げ自己実現に繋げていくことができます。

■活動内容と実績

1 三重県教育委員会「大学生等教育アシスタント」及び「自主ボランティア」

「大学生等教育アシスタント」については、前期14名、後期10名が登録して活動を行いました。また、「自主ボランティア」として、2名が活動を行いました。

活動内容は、実施校によって内容は様々ですが、主に授業時の児童生徒の学習支援を行っています。通常の学級だけでなく、特別支援学級における支援も行うなど、学生にとっては貴重な経験となっています。また、留学生は外国につながる児童生徒の通訳等の支援を行い、学習面のサポートだけでなく心理面や生活面での支えとなっています。

2 有償ボランティア（学習指導員・スクールサポートスタッフ等）

有償ボランティアである学習指導員(5名)や相談員(2名)、スクールサポートスタッフ(2名)、通訳(2名)として活動する学生もいます。活動内容は、学習指導員は授業における児童生徒の学習の支援、スクールサポートスタッフは教員の事務作業の補助、相談員は児童生徒の相談活動、通訳は外国につながる児童生徒の授業での支援や保護者との通訳や文書の翻訳などを行っています。

学生は、こどもたちから「先生」と呼ばれ、授業の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍していきました。中には、時間さえあれば小学校に出向き、積極的に子どもたちとかかわる学生もいます。

小学校の校長先生からは、「学生がこどもたちに寄り添ってくれ、安心して学校生活を送れるようになっており、ボランティアに来て頂けることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、こどもたちに寄り添って面倒をみてくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会のある場としてほしいです」という感想を頂いており、小中学校と大学双方にとって有意義な取り組みであると考えています。

■今後の計画

2024年度以降も三重県教育委員会の教育アシスタント制度や学習指導員等の制度を活用しながら、さらに多くの学生が参加できるよう呼びかけ、取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担当 こども教育学部 伊東 直人（授業科目「ボランティア活動」「学校体験活動」担当）

連絡先 メール n-ito@suzuka.ac.jp

2-2 三重県立みえこどもの城でのイベント開催

■活動の目的と経緯

三重県立の大型児童館「みえこどもの城」にて、2018年から毎年継続してイベントを開催しています。公益財団法人三重こどもわかもの育成財団のご協力のもと、未就学児から小学生低学年の一般親子を対象とした、学生が主体（企画・チラシ作成・実践）のイベントを継続しています。短期大学部こども学専攻の希望者が関わり、学習の集大成としてイベント実践を2年次後期に位置付けています。学生は、イベントを通して社会と繋がることによって、地域としての保育・教育の在り方、またその大切さを学びます。準備・実践を通して内外でのコミュニケーション能力を高め、また個々の得意分野を最大限に活かすことで自信を高め、卒業後の生きる力に繋がります。

■活動内容と実績

【2018年度】『すすたんのおねえさんたちとあそぼう』学生数6名

【2019年度】『すすたんのおねえさんたちとあそぼう』学生数5名

【2020年度】『すすたんのおねえさんたちとあそぼう～クリスマス～』学生数5名

【2021年度】『すすたんのおねえさんたちとあそぼう

～まじょっこたちのハロウィンパーティー～』学生数9名

【2022年度】『すすたんのおねえさんたちとあそぼう～どうぶつたちの山へ～』学生数6名

【2023年度】『すすたんひろばであそぼう～てづくり楽器をつくって音を楽しもう～』学生数5名

4月：希望者・日時決定

5月～：イベント企画

7月：内容決定・準備

8月：チラシ作成

10月：最終調整

11月：リハーサル及び本番（4日）



■今後の計画

2024年度も、みえこどもの城のスタッフの方々にご助言をいただきながら、取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担当 短期大学部こども学専攻 みやざき 美栄(授業科目「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ」担当)

連絡先 メール m-miyazaki@suzuka.ac.jp

2-3 こどもボランティア部

■活動の目的と経緯

こどもボランティア部は、様々な社会問題を常に洞察していく心を大切に、教育・保育活動と密接に繋がっている「こども・保護者・地域」と積極的に関わりを深めていける自律的な活動体を目指し、こども教育学部一期生を主体に平成29年度に歩みを始めました。

■活動内容と実績

こどもボランティア部は、コロナ禍前には、主に「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」とタイアップし、丁寧なご指導を頂きつつ、交通事故被害者、犯罪事件被害者など、残された遺族に寄り添う活動のお手伝いをさせて頂いてきました。しかし、令和2年度からのコロナ禍により、様々な活動が中断され、主力だった学生の卒業・就職に伴い、後輩への活動の継承も危ぶまれましたが、令和4年度には、新しい学生メンバーにより地域に根差した活動の模索が再スタートしました。「ラピュタ鈴鹿～不登校生の居場所～」での子どもたちとの触れ合い、「リンゴの家～鈴鹿子どもの家～」でのサポート、「千代崎ビーチ～子ども食堂～」での絵本の読み聞かせ、など継続性のある活動への取り組みが始まりました。

令和5年度の取り組みは以下のように展開されました。

○4月：新入生オリエンテーションでの部活動紹介を経て、実に20名前後の新入部員を迎えることができました。

○5月～：会合では、チャットでの忌憚のないやり取りや、それぞれの活動の是非を探るアンケート回答方式の導入、オンライン会議の実施、など大所帯となったこどもボランティア部の中で風通しのいい意見交換ができる方法を模索しました。

また、NPO 法人や労働者協同組合とのパイプを持つ上級生部員の橋渡しもあり、個別のボランティア活動に、その時参加できる部員が少人数でも関わっていくことで、「自然体験活動 潮干狩り」や「献血サポーター」などの体験を重ねることができました。

○8月：「夏休みプログラミングロボット対決」では、鈴鹿高専とタイアップしたこども向けプログラムでの活動に参加しました。

○10月：ぬいぐるみ&こども服の無償提供を行う「Happy Connect Smile Project ～みんなの笑顔を未来につなぐプロジェクト～」をこどもボランティア部と郡山町づくり協議会が共同で主催し、“背景→立案→準備→実施”といった一連の活動を、一丸となって主体的に取り組むことができました。

「大学祭」でも、ぬいぐるみ&こども服の無償提供や、子どもたちとの触れ合い活動を実践することができました。

○11月&翌1月：昨年度も好評を博した「郡山こども教室」を、郡山公民館にて二回にわたり実施しました。子どもたちと触れ合うための様々なあそびのバリエーション、創作おもちゃの活用に取り組みました。

○2月：「みえまちキャンパス」にて、ボランティア部前部長がプレゼンテーション部門の発表者としてボランティア活動の内容を披露し、パネル発表部門とともに優秀賞をいただきました。また、鈴鹿大学は今年度の「みえまちキャンパス」の幹事校であったため、多くのこどもボランティア部員が学生スタッフとして参加し、運営に積極的に関わることができました。



「Happy Connect Smile Project」のフライヤー



「郡山子ども教室」での取り組み



大学祭での「子ども服の無償提供」

■今後の計画

今年度末をもって、積極的に部を率いてきた前部長や、NPO 法人などと強いパイプを持つ他の最上級生たちが卒業・就職していきます。後を任された後輩たちが、先輩の意思を受け継ぎつつ、自分たち独自にボランティア活動を模索していく意気込みを持つことが期待されます。継続中の活動は、さらにより良いものに改善していけるように知恵を出し合っていくことも今以上に必要となるでしょう。

■担当者

担当 顧問・真下賢一（鈴鹿大学子ども教育学部子ども教育学専攻）

連絡先 メール k-mashita@suzuka.ac.jp

2-4 グローバルスタディ

■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会実現に向けた取り組みとして、国際経験の豊富な留学生・日本人学生を地域の幼稚園、小・中・高の県内教育機関、行政、国際交流団体等に派遣しています。

本事業は、地域の皆様に外国に対する知識と理解を深めていただくためだけでなく、参加する本学学生の自己啓発を促すための「教育の場」としても位置づけています。学生たちが本学で学ぶ国際学の専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

■活動内容と実績

2023年度は2回開催されました。11月には、いなべ国際交流協会経由でいなべ総合学園高校から「韓国文化に触れる」というテーマでの依頼があり、韓国学生2名が、韓国人としての日本生活、韓国の兵役などについて発表し、その後高校生と交流しました。2月には、小学校での国際交流授業で、ネパール人学生、韓国学生が自国の文化について話し、小学生と交流しました。



(11月29日 いなべ総合学園高校)



(2月9日 郡山小学校 郡山小学校HPより)

■今後の計画

引き続き、県内教育機関、行政、国際交流団体等からの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなる活動を目指し、事業展開を進めていきます。国際交流協会をはじめ、様々な団体との国際交流を検討しています。

■担当者

担当 教務・学生支援課 および COC（地域連携）・国際交流センター

連絡先 メール gakusei@suzuka.ac.jp

3-1-2 授業公開

■活動の目的と経緯

開かれた大学、地域に貢献できる大学を目指し、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部では、正規授業を地域の皆様に公開しています。聴講生として受講をしていただきます。新型コロナウイルス流行の影響で、3年ぶりに授業を公開しました。地域住民の皆様が生涯学習の場としてご利用してくださっています。

■活動内容と実績

今年度は、後期に 18 科目の教養科目や各学部の専門科目と幅広い分野の科目が公開されました。公開された科目は下表の通りです。国際関係論に 1 名の受講がありました。

	月	火	水	木	金
1 限 9:00～ 10:30	・地域研究・アジアⅡ (竹野)			・アカデミック・ライティ ング (マホニー)	・観光と文化 (渡辺) ・地域研究・アメリカ (杉浦)
2 限 10:40～ 12:10	・国際関係論 (松下)	・歴史学演習 (細井) ※中国語中級既修者対象	・平和学 (松下) ・ニューツーリズム論(古 川)		・地域の中のこども学 (石川)
3 限 13:00～ 14:30	・歴史学概論 (細井) ・食と持続可能性 (櫻井) ・社会と人権 (竹野)				・クラブビジネスマネジ メント (紺田)
4 限 14:40～ 16:10	・韓国語Ⅱ (舟橋) ・中国語Ⅱ (細井)	・国際経営戦略論 (李) ・衛生学及び公衆衛生学 (各論) (翠川)		・情報処理論 (原)	

※は大学院科目

■今後の計画

引き続き、地域住民の学びの場として、正規授業を公開していきます。2024 年度も後期に授業公開する予定です。

■担当者

担 当 COC・国際交流センター および 教務課

連絡先 メール kyomu@suzuka.ac.jp

3-2 高等教育コンソーシアムみえ

■活動の目的と経緯

三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。鈴鹿大学は、2016年3月の高等教育コンソーシアムみえ設立と同時に活動に参加しています。

■活動内容と実績

本事業には、以下のような活動があります。

- 1.企画運営委員会：コンソーシアムの企画、運営、評価、広報など
- 2.FD/SD 部会：教育・職員の能力向上、専門人材の育成など
- 3.地域貢献部会：地域貢献機能の充実、地域からの事業受託、学生の地域活動支援など
- 4.教育連携部会：(1)三重創生ファンタジスタの養成、(2)単位互換協定に基づく授業科目の開放

本年度は、地域貢献部会の活動として、本学が幹事校となり「令和5年度『みえまちキャンパス』」を開催しました。スタッフも含めて50名超の参加者がありました。4年ぶりの対面開催となり、コロナ禍で学生の地域貢献活動が縮小する中、5つの発表団体が活動の発表を行いました。(写真)



参照 https://conso-mie.jp/2024/02/22/2023miemachi_visitors/

■今後の計画

今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指してまいります。

また、2024～25年度は地域貢献部会の事務局校として、活動に参加していきます。

■担当者

担 当 COC（地域連携）・国際交流センター

連絡先 メール gakusei@suzuka.ac.jp

3-3 鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿市内において災害発生時に、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動を行うことができるように、本学は鈴鹿市社会福祉協議会と連携協力することで、被災者等の生活安定に寄与しなければなりません。特に、本学は、ボランティア受付のサテライトとして位置付けられています。

■活動内容と実績

今年度は、鈴鹿市社会福祉協議会と締結している連携協定に基づき、3月9日（土）鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練に教職員4名が参加しました。鈴鹿市役所及び鈴鹿市社会福祉協議会から職員約40人、協力団体である本学他、青年会議所等企業等から約110人が参加しました。今回からボランティアの申請はネット上で行い、当日の受付も同様にQRコードを利用するようにし、災害の危機管理もDX時代にあった対応になっていました。駆けつけボランティアへの受付から案内、ボランティア実施から帰着まで連携作業を訓練しました。また、終了後輪島市のうどんを提供されおもてなしを受けました。今後本学は、教職員はもとより留学生を含め学生に広く災害ボランティアについて周知する必要があります。



■担当者

担当 総務課およびCOC（地域連携）・国際交流センター
連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

3-4 あそび広場「すすちゃん」

■活動の目的

あそび広場すすちゃんは、地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供します。また、子ども同士、親同士が自然に交流できる環境を作り、子どもの健やかな育ちを支えます。親のニーズに応じ、子育て等に関する情報の提供や相談を通して、親が安心して子育てができる環境を整えてきました。学生は実践活動を展開し、保育の実践力を高める場となっています。

■活動内容と実績

新型コロナウイルス感染症の5類以降に伴い、昨年度より時期を早め7月から開催いたしました。

開催期間：毎週水曜日 10時～12時（鈴鹿大学1棟プレイルーム）

開催回数：通常の広場 11回、リトミック 4回

参加費：通常の広場 無料、

リトミック 未就園児親子 1組 1回 1,000円

担当者：橋村晴美、南谷悠子、國京恵子

リトミック：勝井由紀（外部講師）



2023 あそび広場すすちゃん 参加人数					
		担当	学生	親	子ども
1	7月5日	リトミック	0	14	13
2	7月12日	短大2年生	8	8	8
3	7月26日	短大2年生	6	9	10
4	8月2日	リトミック	0	9	11
5	10月4日	リトミック(こども教育4年生)	0	9	9
6	10月18日	子ども教育2年生	4	12	12
7	11月1日	リトミック	講師急病のため中止		
8	11月8日	子ども教育2年生	4	6	6
9	11月15日	短大1年生	8	11	11
10	11月22日	短大1年生	8	3	3
11	11月29日	子ども教育2年生	5	7	7
12	12月13日	子ども教育2年生	4	10	10
13	12月18日	子ども教育1年生	13	7	7
14	12月20日	リトミック(こども教育4年生)	13	10	10
15	1月10日	子ども教育4年生	14	9	9
16	1月15日	子ども教育1年生	14	9	10

令和5（2023）年度は、学生のべ103名、子ども136名、保護者133名の参加がありました。本活動は学生の実践的な学びの場、教員の研究・教育の場、大学の地域貢献活動、保護者・こどもの安心の場・楽しい場となっています。教育・保育実習では学ぶことのできない保護者支援の学びが期待でき、実習に先立って保育指導の学びも得ることができる機会となりました。指導計画案に基づいた保育の充実を図り、毎回振り返りのミーティングをもって成果、課題を語り合い、模擬保育を実践することで、学生に十分な学びの場を提供することができました。

■今後の計画

今後も、安全な環境構成に努めながら広場を開催し、広場の存在をより多くの人に利用してもらえるように広報いたします。また、多くの参加者を募り、地域の子育て支援へ貢献するとともに、学生の学びの成果を高めていきたいと思っております。

■担当者

担当者代表 短期大学部 こども学専攻 南谷悠子

連絡先 メール y-nanya@suzuka.ac.jp

3-5 鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」

■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなベル』」は、鈴鹿市と連携し、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応えるとともに、学びの楽しさを実感し、生涯学習をさらに深めていくことを目的としています。

「まなベル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の4高等教育機関が行っている事業です。各教育機関を会場として、それぞれの特徴を生かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供しています。

■活動内容と実績

今年度テーマ「新時代～学びのスパイスを求めて～」

- ・2023年9月30日（土）10：30～12：00（会場：I棟 102）

講座：生活と音楽—音楽との新しいかかわり方—

ねらい：生活と音楽のかかわりを体感することを通して、音楽との新しいかかわり方を提案します。また、回想法にもとづくグループ・ワークでは、受講者の方々の記憶を呼び覚まし、共感し合うことを目指します。

講師：短期大学部 准教授 南谷 悠子

参加人数：22名



- ・2023年10月14日（土）10：30～12：00（会場：B棟 302）

講座：「ヘルスツーリズム（健康を維持・促進する観光）」による地域活性化に向けて

ねらい：日本では外国人観光客の増加によりニューツーリズムが人気ですが、その一つである「ヘルスツーリズム（健康を維持・促進する観光）」について学びます。また、ヘルスツーリズムによる地域の活性化に向けて、ヘルスツーリズムの現状と課題を解説します。

講師：国際地域学部 教授 古川 彰洋

参加人数：27名



■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望（テーマ）及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

■担当者

担当 総務・財務課 丹羽 香織

連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

3-6 みえアカデミックセミナー

■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々とをつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

■活動内容と実績

全体テーマ「知のひろがりそれは希望への一歩」

・2023年7月22日（土）13：30～15：00（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講座：道徳性の心理学 ―人間は善悪をどのように考えるのか―

講師：こども教育学部 教授 齋藤 信

参加人数：95名



・2023年8月26日（土）13：30～15：00（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講座：食品保存術 ―家庭でできる食品ロス削減―

講師：短期大学部 教授 櫻井 秀樹

参加人数：95名



■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

■担当者

担当 総務・財務課 丹羽香織

連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

3-7 野球振興プロジェクト

■活動の目的と経緯

ワールド・ベースボール・クラシックの優勝や大谷翔平選手の活躍などで盛り上がった一方、日本の国民的スポーツとして愛されてきた「野球」は、競技人口の激減により、窮地に立っています。日本の野球人口（選手登録数）は、2010年の約161.7万人から2022年の約101.7万人へと激減しています。とくに、小学生（学童）と中学校野球部員の減少が大きいことから、今後も競技人口の減少が続くことが予想されます。そこで、鈴鹿大学硬式野球部員7名が所属する国際地域学部の田中・竹田ゼミとスポーツ振興団体である特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会が連携し、「野球振興プロジェクト」を実施することになりました。

学生は、野球人口減少の課題がどこにあるかを検討した結果、幼児と中学生に対して野球教室を開催することを決めました。そこで、学生が主体となり、野球教室の内容や運営方法を考え、三重県生涯スポーツ協会の助言を取り入れながら、「野球振興プロジェクト」を推進させました。

これにより、学生が社会との繋がりをもちながら、実践の中で学びを深めました。

■活動内容と実績

①幼児への野球教室

- ・鈴鹿大学体育館に隣接のこども園から幼児を招き、野球教室を4回開催しました。

日程：6月30日、7月14日、28日、11月10日 参加数：87名

②中学生への野球教室

- ・津市内の中学校野球部員を対象に野球教室を1回開催しました。

また、特別講師として、元中日ドラゴンズの石川駿さん、湊川誠隆さんを招きました。

日程：7月31日 参加数：179名



■今後の計画

田中・竹田ゼミの学生が中心となり推進した2023年度の「野球振興プロジェクト」は、2023年度の一連の事業で終了となりますが、今後は硬式野球部等が中心となり継続的な活動が実施されることを期待しております。

■担当者

担当 国際地域学部 竹田昌平（授業科目「3年次演習」担当）

連絡先 メール s-takeda@suzuka.ac.jp

3-8 鈴鹿大学と三重バイオレットアイリスによる産学連携授業

■活動の目的と経緯

本活動の目的は、産学連携の課題解決型学習を実施することで学生の実践的な学びを深めることです。活動の経緯は、鈴鹿大学と三重バイオレットアイリスが「スポーツ経営人材の育成に関する産学連携協定」を締結しており、スポーツを仕事に活躍できる人材の育成に取り組んでいるからです。

■活動内容と実績

①親子スポーツイベントの開催

- ・親子を対象にしたスポーツイベントを鈴鹿大学の体育館で実施しました。

三重バイオレットアイリスの選手5名、コーチ1名、学生8名でイベントを運営。

日程：7月26日 参加者数：32名

②ホスピタリティシートの運営

- ・三重バイオレットアイリスのホームゲームでホスピタリティシートを企画、販売、運営しました。

日程：1月19日 参加者数：4名



三重バイオレットアイリス × 鈴鹿大学 コラボチケット

ホスピタリティボックスシート
おもてなしとベンチサイドシート

MVI
MIE VOLLEYBALL TEAM

当日購入 OK!!

20,000円
最大4名様まで

魅力的な特典が付いてくる！

- ・ 天名乃湯 入浴チケット(人数分)
- ・ お弁当「お茶付き」+キッチンカー1品
- ・ インタビュー体験
- ・ 選手トレカ4枚
- ・ ベンチ横での観戦

注目!

■今後の計画

今後の計画は、三重バイオレットアイリスの抱える課題に対して解決できる活動を学生が考え、実施していく予定です。

■担当者

担当 国際地域学部 紺田俊（授業科目「3年次演習」担当）

連絡先 メール s-konda@suzuka.ac.jp

4. 国際交流

4-1 海外留学支援プログラム

■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられ、開学以来、学生が海外生活を送り、異文化を体験できるような支援を行っています。現在は、必要条件を満たす学生が支援金を申請できる「海外留学支援プログラム Study Overseas Program」が設置されています。

■活動内容と実績

新型コロナウイルス関連の規制の緩和および撤廃に伴い、2023年度は韓国・仁川大学校へ海外留学支援プログラムを利用して人文学部日語日文科へ3名の学生派遣を再開することができました。内訳は、2023年3月より12月の長期プログラム(私費)1名、2023年度3月より6月までの中期プログラム(支援金対象)1名、2023年度9月より12月の中期プログラム(私費)1名です。

仁川大学校において、学部とは別組織の語学教育機関である「語学堂」で開講される短期集中型の授業にも、6月～8月初旬に1名、12月～2月初旬に1名、それぞれ中期プログラムの学生が参加しました。(学費は自己負担)

学びの成果は、12月と2月に開催された報告会で発表され、仁川大学校から送られた成績評価に基づき、海外研修Ⅰ～Ⅳの合計8単位が認定されました。



(12月20日 西村彩佑氏)



(2024年2月28日 榎本奏美氏・永作柚氏)

■今後の計画

引き続き、海外協定校への留学を支援していきます。2024年度は、韓国・仁川大学校に加え、台湾・長栄大学への交換留学も支援していきます。

■担当者

担当 教務・学生支援課 および COC（地域連携）・国際交流センター
連絡先 メール gakusei@suzuka.ac.jp

4-2 国際交流

■活動の目的と経緯

本学の海外における情報発信を図ることにより、入試広報の効果が得られるとともに、それに伴う海外留学支援事業の実施も各種の大学評価システムに 대응するものになっています。

■活動内容と実績

2023 年度は、中国との連携を強化するため6月に現地見学を行い8校と友好提携に関する覚書を締結しました。提携したことにより、10月には学生、教職員が中国を訪問し、学生同士の交流が図れ、本学への入学及び短期留学など実績につながりました。



■今後の計画

中国のみならず多文化共生をより発展させます。

オンライン交流会の広がりを検討し、教員間の学術交流を視野に入れます。

■担当者

担 当 総務・財務課 および COC(地域連携)・国際交流センター
連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

●巻末資料

・令和5年度公開講座一覧

	講座名	講師	開催日	内容	受講者数
1	津城下のまちあるきツアー	富本真理子	5月20日 (土)	カトリック津教会、お城西公園、正覚寺（赤門寺）、イセタニコレクション（カトリック津教会）を、説明つきで、ゆったり約1.5時間程度かけて歩いて回る	15名
2	パン教室	乾 陽子	6月24日 (土)	あんパンとクリームパンを手ごねで作る。生地をこねるところからすべて手作業で行う。出来上がりのおいしさは格別であり、自分のパンは自分で作るので安心である	15名
3	ヘルスツーリズムの今	古川 彰洋	7月8日 (土)	健康になるヘルスツーリズム（健康観光）とはなにか？旅のリスクを学んで、楽しく旅する技を磨く	7名
4	キッチンで楽しくサイエンス	木村 幸泰	8月5日 (土)	料理作りで起きる化学変化や野菜・果物の植物として面白い性質など、台所で見つかる面白サイエンスを体験する	12名
5	楽しいなわとび運動！	川口 啓	9月16日 (土)	コロナ禍で低下した体力をなわとび運動で高め、初歩から上級編まで楽しく体験する。短なわとび（1人で跳ぶ、2人・3人で跳ぶ）長なわとび（多人数で跳ぶ）の楽しいバリエーションがある。子どもだけでなく、親や指導者向けに手足のリズムやタイミングの取り方等なわの跳び方と跳ばせ方のコツを解説する	34名
6	ストレスを味方にする方法について考えましょう！	木村 美来	10月14日 (土)	ストレスは、私たちの行動や健康に必ずしも悪影響のみを与えるわけではなく、充実した人生やさらなる成長につながるポジティブな側面をも持っている。本講座では、ストレスに対する根本的な考え方を変えることによって、困難な状況にあっても、積極的に対応することができることについて学ぶ	10名
受講者合計					93名

・学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

教員

氏名	派遣先	内容
川又 俊則	桑名市	桑名市男女共同参画審議会／委員
	鈴鹿享栄学園	評議員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議／委員
		みえライフイノベーション総合特区地域協議会／委員
	三重県私学総連合会	副会長
	鈴鹿市スポーツ協会	評議員
	SUZUKA 産学官交流会	顧問
	ケーブルネット鈴鹿放送番組審議会	委員
鈴鹿メディアパーク番組審議委員会	委員	
今光 俊介	鈴鹿医療科学大学	臨床研究倫理審査委員会／外部委員
		ヒトゲノム研究倫理審査委員会／外部委員
	鈴鹿市社会福祉協議会	鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市廃棄物減量等革新審議会／委員
鈴鹿市	鈴鹿市モノづくり元気企業支援事業検討会議／構成員	
田中 利佳	三重県議会	三重県選挙管理委員会／委員
舟橋 宏代	ダイシン物流株式会社	ダイバーシティプロジェクト四日市日本語教室／講師
富本 真理子	斎宮歴史博物館	運営専門委員
	伊勢市	伊勢市都市計画審議会／委員
	三重県	第23回三重県文化賞選考委員会
松下 奈美子	国立社会保障・人口問題研究所	アジア諸国から日本へ向かう国際労働移動に関する将来推計モデルの開発プロジェクト／委員
栈敷 まゆみ	三重県	三重県多文化共生推進会議／委員

竹田 昌平	株式会社タケダ	代表取締役
	三重県生涯スポーツ協会	理事長
	株式会社プロット	取締役
吉田 翔平	三重県野球協議会	普及振興部会／部会長
上田 ゆかり	鈴鹿市	鈴鹿市子ども・子育て会議／委員長
	三重県	みえ家庭教育応援推進会議／委員
翠川 薫	科学技術振興機構	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)トライアウト／専門委員
橋村 晴美	鈴鹿市	鈴鹿市特定教育・保育施設等重大事故検証委員会／委員長
井上 明美	長浜市教育委員会	就学前特別支援巡回相談／相談員
木村 美来	鈴鹿市	鈴鹿市国民保護協議会／委員
		鈴鹿市防災会議／委員
長澤 貴	三重県人権教育研究協議会	三重県人権教育研究協議会／役員
梅原 頼子	三重県栄養士会	監事
	三重県	公衆衛生審議会歯科保健部会／委員
清田 雄治	みよし市	みよし市情報公開・個人情報保護審査会／委員 みよし市行政不服審査会／委員
	知立市	知立市情報公開・個人情報保護審査会／委員
	尾三消防組合	尾三消防組合行政不服審査会／委員 尾三消防組合情報公開・個人情報保護審査会／委員
青木 和人	三重県市町総合事務組合	第4期共有デジタル地図整備業務に係る総合評価審査委員会／委員

職員

森 憲治	高等教育コンソーシアムみえ	高等教育コンソーシアムみえ産学官金連携協議会／委員
------	---------------	---------------------------

・協定先一覧

2024年12月27日現在

協定先	内容
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との災害発生時における相互協力に関する協定書
道の駅「紀宝町ウミガメ公園」 紀宝町	国内研修に関する覚書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
株式会社日本政策金融公庫津支店 株式会社日本政策金融公庫四日市支店	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書
亀山みそ焼きうどん本舗 亀山市 株式会社鈴りん探偵舎	B-1 グランプリで亀山をしてもらおう協定
松阪市 三重県立飯南高等学校 株式会社鈴りん探偵舎	飯南いいな～協定
株式会社タスカル	株式会社タスカルと学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
三重県	鈴鹿大学及び鈴鹿大学短期大学部への三重県営住宅の提供に関する協定書
NPO 法人三重県生涯スポーツ協会	NPO 法人三重県生涯スポーツ協会とのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社三重スポーツコミュニケーションズ	株式会社三重スポーツコミュニケーションズとのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社 ZIONGROUP	株式会社 ZIONGROUP とのデータサイエンス教育に関する協定書
陸上自衛隊航空学校	鈴鹿大学短期大学部校外実習生受け入れ協力に関する協定書
一般社団法人鈴鹿市観光協会	一般社団法人鈴鹿市観光協会と学校法人享栄学園の相互連携に関する協定書
太門通商株式会社	太門通商株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
日清医療食品株式会社	日清医療食品株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書

協定先	内容
東海東京ファイナンシャル・ホールディングス株式会社	寄附講座の実施に関する覚書
特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会 三幸株式会社	スポーツビジネス人材の育成に関する産学連携基本協定書
NPO 法人三重花菖蒲スポーツクラブス	スポーツ経営人材の育成に関する産学連携基本協定書
株式会社スズカ未来	株式会社スズカ未来と学校法人享栄学園との産学連携基本協定書

● 高大連携関係 協定先一覧

2024年12月27日現在

協定先	内容
放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の編入学生に関する協議書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の学術交流に関する協定
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
四日市大学 他5高等教育機関	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
鈴鹿高等学校 鈴鹿中学校	鈴鹿中学校・鈴鹿高等学校と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
大韓民国順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との教育の交流に関する協議書
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との学術交流に関する協定
NAJC	鈴鹿大学とNAJCの教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学の学術交流に関する協定
三重大学 他11高等教育機関 三重県	「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定書
三重大学 他12高等教育機関	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学との連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書
蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書
中国文化大学社会科学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
啟英高等学校	啟英高等学校と学校法人享栄学園との高大連携に関する協定書
啟英高等学校	鈴鹿大学と啟英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協議書
長榮大学	鈴鹿大学と長榮大学との学術交流に関する覚書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
佛教大学	佛教大学と鈴鹿大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定書

協定先	内容
三重県高等学校商業校長会	三重県商業学校商業校長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書
愛知教育大学	愛知教育大学と鈴鹿大学との教員養成の高度化に関する連携協定書
高田高等学校	インターンシップに関する覚書
特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会	インターンシップに関する協定書
一般社団法人グローバル愛知	外国人留学生インターンシップの受入に関する覚書
ジャパンHRソリューションズ株式会社	外国人留学生インターンシップの受入に関する覚書
中国 湖南女子学院	湖南女子学院短期留学協定締結について
三重県立白子高等学校	高大連携に関する協定書締結について
三重県立石薬師高等学校	高大連携に関する協定書締結について
三重県立白山高等学校	高大連携に関する協定書締結について
三重県立飯南高等学校	高大連携に関する協定書締結について
三重県立稻生高等学校	高大連携に関する協定書締結について
三重県立四郷高等学校	高大連携に関する協定書締結について
中国 安徽国际商务职业学院	友好提携に関する覚書締結について
中国 江西応用科技学院、阜陽師範大学	友好提携に関する覚書締結について
中国 重慶外国語外事学院	友好提携に関する覚書締結について
中国 上海外国語大学賢達経済人文学院	友好提携に関する覚書締結について
中国 江西外语外贸职业学院	友好提携に関する覚書締結について
中国 青島幼児師範高等学校専科学校	友好提携に関する覚書締結について
中国 榆林正大中学	友好提携に関する覚書締結について